

平成 29 年度第 5 回学校運営協議会議事録

神奈川県立市ケ尾高等学校

日 時：平成 30 年 3 月 24 日（土）10 時～12 時 30 分
場 所：神奈川県立市ケ尾高等学校 中央棟 3 階会議室

出席者（敬称略）

【委員】

倉岡 正高（地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所研究員）

中村 浩樹（本校 PTA 会長）

鈴木 秀幸（地域住民）

福田 晴好（翔凜高等学校 特別講師）

内川 隆（本校 同窓会長）

○仁井田尊史（横浜市資源循環局青葉事務所 所長）

田中 多恵（NPO 法人 ETIC 横浜ランチマネージャー）

増淵 広美（本校 校長）

（欠席者）

○田口 亮（東京都市大学知識工学部 教授）

○坂村 暁（横浜市立市ケ尾中学校 校長）

【事務局】

奥津 賢一（本校 副校長）

佐藤 和彦（同 教頭）

黒柳 幸子（同 地域連携・広報グループリーダー）

近藤 駿矢（同 学校運営協議会委員担当）

熊谷ますみ（同 学校運営協議会委員担当）

議 事（司会 副校長）

出席者及び議事成立の人数確認。傍聴者として評価部会委員が 2 名参加。資料確認。

1 開会の言葉（副校長）

今年度最後の協議会となる。これまでの活動の報告に加え、今年度の学校評価ならびに次年度実施予定の特別教育プログラムについて委員の皆様にご協議いただき、有意義な会議としたい。

2 会長挨拶（倉岡会長）

今回も報告事項・協議事項について様々な意見をいただきたい。

3 校長挨拶

先日卒業式が行われ、390 名が卒業した。卒業生を合計すると 175,000 名を超え、様々な分野で活躍している。学校運営協議会は今回で 5 回目をむかえることができた。本日は 1 年間のまとめと新しい教育プログラムについて協議いただきたい。

4 報告事項（○：委員 ：学校）

(1) 1～3月の活動報告

資料なし。(スクリーン投影による紹介)

- 内容：1) 鶴見川流域の清掃活動や護岸の美化活動への表彰
2) 鳴門教育大学大学院の教授を迎えての職員研修会
3) 横浜市立大学の学生を招いたスタディーアップ講演会
4) 障がい者との共生を目指した「みんな集まれ2017」イベントへダンス部の参加
5) PTAおやじの会餅つき大会
6) 卒業生4人を招いたキャリアアップ講演会
7) 生徒対象人権教育講演会

(2) 地域や保護者等との連携・協働事業について

県養護施設での殺傷事件から1年半が経過した。3月17日に行われた障がい者との共生を目指した「みんな集まれ2017」イベントに本校のダンス部が参加し、好評を得た。ダンス部は成功体験を得たことで大きなやりがいを感じたようだ。

(3) 部活動実績

どの部も目標に向かって頑張っている。また、10月に陸上部・生徒会・ボランティア委員会が横浜マラソンの高校生ボランティアにエントリーしたり、1月に華道部が青葉区賀詞交歓会において生け花を披露したりと、徐々に地域との繋がりをもつ部活動が増えてきている。

(4) 生徒による授業評価結果報告について

見やすいように棒グラフにした。第2回は、第1回の評価との比較・分析を行った。

すべての教科の評価がよい結果を得ていると思える。

授業評価の質問項目は県で決められており、年間で2回行うようになっている。芸術は3科目とも、単に「書かせる」、「描かせる」、「表現させる」だけではなく、題材について知識を深め合ったり、話し合ったりしている。公民科科目の現代社会では、アクティブ・ラーニングの視点を踏まえ、生徒自身が課題を探し、グループで話し合い発表する生徒主体の授業を行っている。

授業改善はどのように取り組んでいるのか。

その教科だけではなく、教科横断型研修会を行い、改善策について話し合った。また、文科省に派遣されている職員による研修を行い、最新の情報を全職員で共有した。また、鳴門教育大学大学院の教授を迎えて、生徒の実態に基づく効果的な教育活動及び指導に関する研修も行った。

授業評価の質問項目が毎回同じだと改善されないこともあるのではないかと。

形骸化されることもあるので、改善策についてお知恵をいただきたい。

前年度の項目はどうなっていたのか、改善されたのか否か、分かるようにしてほしい。

来年度は様式を変え、改善していきたい。

(5) 市ケ尾ユースプロジェクトについて

【チーム「そんなのありかなしか」で作成した青葉区のPR動画をDVDで提示】

2月20日(火)、青葉区役所で市ケ尾ユースプロジェクト成果発表会があり、5つのチームが成果を発表した。また、3月10日(土)セカンドキャリアフォーラムクローズングイベントで市ケ尾ユースプロジェクトの活動報告を行った。コメンテーターの大正大学の教授から「都会ならではの人材の豊富さが活かされている」とお言葉を頂いた。都市部の進学校でのコミュニティ・スクール成功例となるだろう。これから多くの学校に情報を発信していきたい。

(6) その他

5 協議事項

(1) 学校評価に係わる校内評価について

- 評価部会で、2学期のアンケート実施前に評価部会を開き、そこで質問項目を考えた方がよという意見があった。3年生は計画登校が始まる前にアンケートを実施する必要があるので、10月頃から始めたらよいと思う。自由記述欄の記載の扱いについては、少数意見が大多数の意見と思われる危険性がある。アンケート用紙の形式なども見やすいように工夫してみてもどうか。

取組みを決める時に評価をセットにして考えたらどうだろうか。表現が難しくて抽象的なので、もっと分かりやすい表現を使ったほうがよい。

(2) 校内活動「特別教育プログラム」の設置について

地域協働部会で「特別教育プログラム」の設置を提案した。市ケ尾ユースプロジェクトもその一環として位置づけ、引き続き実施していく。その他、「グローバルリーダーシップ講座(国際理解勉強会)」や「食ラボ・市ケ尾高校」を予定している。講師として福田委員をはじめ、地域人材の活用を考えている。

部活に入っている生徒が参加しやすいようにしてほしい。

一度部活動を離れてしまった生徒がこういった活動に自ら参加することは難しい。生徒たちに伝わりやすいように資料を作成し、宣伝の仕方を工夫してほしい。生徒たちが入りやすいようにあまり大げさにはせず、上手に引き込んでほしい。

生徒、保護者、先生にも参加してほしい。

部活動の顧問の決め方はうまくいったのか。

部活動数が多く、一人が複数の部活動の顧問を担当している。専門的に指導できる教員もいるが、指導できる顧問がいない部活動もある。毎年調整をして顧問を配置しているが、課題が残

る。保護者が協力的で、色々サポートしてもらっている。働き方改革と世の中では言われているが、教職員の業務量を抜本的に減らしていくのはなかなか難しい。

6 その他
特になし

以上